

# 平成28年熊本地震における当事者やご家族のご意見

平成28年熊本地震では大分県でも大きな揺れを観測し、被害に遭われた方もいらっしゃいます。当センターでは、継続的に支援している方をはじめ、発達支援登録証に登録されている方、またペアレントメンターの方への安否確認を行うとともに、大分県発達障がい者支援専門員や連絡協議会構成機関と連絡を取り合い、当事者やご家族のニーズの把握に努めてきました。そのなかで出てきたご意見は以下の通りです。

## 《地震への備えについて》

- 大分で大きな地震が起こったとき、どこに避難すれば良いのか分かっていなかった。今回の地震でそのことを痛感し、恐ろしくなった。(母親：子どもが重度自閉症・知的あり)
- 防災グッズをきちんと準備できていなかった。以前もらった発達障がい児者向けの防災ハンドブックを見ながら、家で準備をしている。(母親：子どもが重度自閉症・知的あり)
- 次に大きな揺れがきたらどうするか説明はしているが、実際起こったらかなりパニックになると思うので、スムーズに避難できるか不安。(母親：子どもがアスペルガー)

## 《当事者やご家族の様子について》

- 避難に備えて、物がいつもと違う位置にあったり、いつもは置いていないリュックがあったりするので、本人がかなり気にしている。本人は今の状況を理解できていないので、実際大きな地震があったらかなりパニックになると思うので、不安。(母親：子どもが重度自閉症・知的あり)
- 緊急避難速報の音で不安が強くなり、その場から動けなくなる。家から出れない。(本人：アスペルガー)
- 不安で眠れなくなった、常に気が張っている状態。(本人：アスペルガー)

## 《避難所について》

- 発達障がいのある子は、体育館や公民館のような普通の避難所で過ごすことはかなり難しい。福祉避難所も数が少なく、もしもの時に福祉避難所が使えなかったらどうしよう…と不安。(母親：子どもが重度自閉症・知的あり)
- 災害対策課で福祉避難所を教えてもらったが、定員がらと少なかったり、家族用の布団が準備できないと言われたり、不安が尽きない。(母親：子どもが重度自閉症・知的あり)
- もし避難の必要性がある地震が起こった際、いったいどこに行けば良いのか分からない。実際、電話も繋がらなくなるだろうし、直接、福祉避難所に行っても対応してもらえるのだろうか…。もし、行って断られたらどうしよう、と不安。(母親：子どもが重度自閉症・知的あり)
- 発達障がいのある子どもにとって、一般の避難所生活は難しい。実際、避難所に行ってみただけ、やっぱり中に入れず、車中で一晩過ごした。(母親：子どもが高機能自閉症)
- 福祉避難所について市の福祉課に問い合わせたら、「まず一般の避難所に来てください。そこから福祉避難所を開くか決めます」と言われた。息子は重い自閉症なので、一般避難所など到底無理。今度大きな地震がきても避難せず、家が倒れるまで家で過ごすしかない。(母親：子どもが重度自閉症・知的あり)
- 避難するべきか、家にとどまるべきか等、自分で判断ができない。(本人：アスペルガー)
- 通学している支援学校へ避難を希望したが、耐震構造でないことを理由に断られた。

## 《その他》

- 福祉避難所のことについて県や市に問い合わせた際、「発達支援登録証を持っています」と言っても通じなかったため、悲しくなった。(母親：子どもが重度自閉症・知的あり)

## 平成28年熊本地震への対応と今後の課題

### ■災害時の安否確認

- 発達支援登録証の方は固定電話しか分からず、電話での安否確認を行いました。日中ということもあり連絡がつきにくく、全員の安否を確認するのに一週間程度の日数を要しました。
  - ペアレントメンターの方は受講時にメールアドレスをお聞きしていたので、メールでやり取りをしました。メールを送って3~4日のうちにはほぼ全員から返信および連絡があり、比較的スムーズに安否確認を行うことができました。
  - 当事者やご家族に対して安否確認を行うとともに、困りや不安等の聞き取りを行うことで、リアルタイムで今困っていることやニーズを知ることができました。
- ◎災害時、当事者やご家族に対してスムーズな安否確認を行うとともに、困りやニーズを素早く把握することが必要と考えられます。

### ■災害時の県内各地域の状況把握

- 連絡協議会構成機関や大分県発達障がい者支援専門員の会(SVの会)と連携をとり、各地域の状況把握を行いました。
  - 地域によって、「避難所が開設されている、されていない」「ライフラインに影響が出ている、出していない」など、状況がかなり異なることが分かりました。
- ◎災害時、どの地域がどのような状況か、どの地域にどのような支援が必要かを把握するために、連携のシステムづくりが必要と考えられます。

### ■避難所について

- 発達障がい児者が一般の避難所で過ごすことの難しさ(普段と違う場所・スケジュール、聴覚的・視覚的な刺激の多さ、等)、対応する側の難しさ(特性理解、特性に応じた配慮、等)が新聞やニュースでも取り上げられていますし、実際に大分県でも避難所に入れずに車中泊をした方もいました。
  - 福祉避難所について多くの困りや不安の声が聞かれました。市町村の担当者に確認すると、「福祉避難所は災害時すぐに開設するわけではなく、一旦、一般の避難所でニーズを把握し、それからどこの福祉避難所を開設するか決める」との回答でした。
  - 揺れに対する不安に加えて、避難できる(発達障がい児者を受け入れてくれる)場所が確保されていないことが、当事者やご家族の不安をさらに高めている様子でした。
- ◎災害時、当事者やご家族が避難できる場所を確保すること、またその避難場所を日頃から周知しておくことが重要であると考えられます。
- ◎また、福祉的な避難所が利用できない場合、一般避難所でも過ごせるような工夫が必要と考えられます。

## 今後の災害時対応について（提案）

### ■災害時の安否確認について

- 災害時の安否確認やニーズの把握に有効であることが分かりました。
- ☞ 発達支援登録証の申込書の記入欄に携帯電話やメールアドレスを尋ねる欄を設け、災害時にできるだけスムーズに安否確認が行えるようにする。

### ■各地域の状況把握について

- 連絡協議会は大分県内の様々な支援機関から構成されており、発達障がい者支援専門員は各地域（圏域）で発達障がい支援に携わっています。
- ☞ 連絡協議会構成機関とはメール・電話でのやり取りを通して、SVの会とはSVの会HP等を通して連携を図り、正確かつ素早い情報収集に努め、支援が必要な地域や場所に対してイコールが後方支援を行う（避難所等の情報提供 等）。

### ■避難所について

- ☞ 発達障がい児者の受け入れが可能な施設などをリスト化し、日ごろから周知しておく。
- ☞ 学校の体育館や公民館などでは発達障がい児者が過ごすのは難しいため、1階の教室など小さめの部屋を発達障がい児者用に開放し、パーテーション等で区切る。
- 自閉症児キャンプにおいて、テントがかなり活躍したことから、災害時も活用できると考えられます。ポップアップテントなどは設営が簡単で、釘なども必要なく、比較的組み立てやすいです。
- 一般避難所にも福祉避難所にも入れない場合、車中泊だとかなり窮屈ですが、テントがあると足を伸ばして寝ることができ、エコノミークラス症候群の予防にもなります。
- ☞ 避難所や各施設にテントを備蓄しておくことで、災害時に活用できる。また、災害時を想定した避難訓練などでも用いることができる。